

都道府県金融広報委員会 事務局員の活動紹介

関係者との 連携強化が活動の源

茨城県金融広報委員会
山田 雅彦

私が茨城県金融広報委員会事務局を担当して3年3カ月が経ちますが、担当したばかりのころは、「金融広報活動」をどのように進めていけばよいか手探りの状態でした。このような私が金融広報活動に取り組んでいくためには、関係者と

緊密な連携を図り、ご協力を得ていくしかありません。

このことに気付くきっかけとなったのは、ある小学校のPTAから、同じ学年の4つのクラスで、同じ時間帯に4人の講師を派遣して同じ内容の金銭教育授業を行って欲しいとの依頼を受けたことです。

この依頼に対応するため、金融広報アドバイザーの方々に集まっていただき、3回にわたり打合せを行い、異なる専門分野からのさまざまな授業案を一つにまとめ上げ、授業

で使用するグッズも作りしました。授業の実施にこぎ着けられたのは、金融広報アドバイザーの皆さまのご協力のおかげでした。

金融広報アドバイザーの方々から、「二人で行う普段の講演では気付けなかった点も多く、皆で話し合う機会が得られてとても良かった」との言葉をいただきました。

これを契機に、県教育庁の協力を得て、校長会やPTA連合会の会合の場で金融教育の活動案内を行う機会を設けていただいたり、日

本FP協会茨城支部との共催により、ミニセミナー付き大規模講演会を実施したりするなど、関係者との連携した活動を積極的に行っています。今後も、こうした連携・

協力の輪をさらに広げていくよう努めていきたいと思っております。



金融学習グループでの学習会の模様(中央が山田さん)

「子どもたちに 楽しく学んでもらう ために」

鳥取県金融広報委員会
花嶋 智恵

当委員会では、例年、大人対象の講座に力を入れてきましたが、最近子ども向けイベントも始めました。

平成22年度「金融教育フェスティバル鳥取」を金融広報中央委員会と共催し、子ども向けイベントで、楽しそうに一生懸命取り組んでいる子どもたちの姿を見た際に「当委員会独

自でイベントを開催してみたい」と思ったことがきっかけでした。翌23年度には、親子向けにカレー作りゲームと保護者向け講座を開催したところ、多数の方に参加していただきました。アンケート結果からも、「また参加したい」、「お金について子どもにどう教えたらよいかヒントをもらった」など、保護者の方々が金融教育に強い関心を持っていることが分かりました。ただ、事務局が、一から会場

設営、準備などをすべて行うには限度があります。そこで、金融広報アドバイザーに相談したところ、「放課

後児童クラブでイベントを実施してみてもどうか？」という助言をいただき、幸いにも、市町村から解をいただくことができ、実現することになりました。子どもたちはお買い物ゲームが大好きです。カレー作りのための買い物では、食材のレプリカを使用したのですが、レプリカを見ただけで子どもたちは興味津々です。

また、ゲームだけではなく、金融広報アドバイザーオリジナルの「おかねクイズ」や他県の金融広報委員会よりお借りした紙芝居など、内容盛りだくさんで子どもたちを飽きさせな

いように工夫をこらしています。

子どもたちから「おかねの大切さ」について学ぶことはとても重要です。今後も、多くの子どもたちに「おかねの大切さ」について、楽しく学べる場を提供できるよう金融教育に取り組んでいきたいと思っております。



左が金融広報アドバイザーの佐竹さん、右が花嶋さん